

国 語

- ・試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ・試験時間は50分です。
- ・解答用紙はこの問題冊子の中央にはさんでいます。
- ・試験のはじめに、問題冊子の表紙と解答用紙に受験番号を記入しなさい。
(名前は書いてはいけません)
- ・解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- ・字数制限のある問いでは、句読点や記号も一字と数えます。
- ・質問などがあれば静かに手を上げて知らせなさい。

受 験 番 号			

① 次の——線①～③のカタカナは漢字に直し、④・⑤の漢字は読みをひらがなで書きなさい。

① 窓をカイホウして新鮮な空気を入れる。

② センモン家の意見に従う。

③ 複雑なコウゾウの建物。

④ 一通りの知識は持っている。

⑤ 参加者の半ばは女性だった。

② 次の語句・文法の問題に答えなさい。

問一 次の各文中の□の言葉は、それぞれ後のどこにかかりますか。一つ選び、記号で答えなさい。

① 数々の感動的な場面を生み出した。
エ オリンピックが今夜閉幕した。

② スケートボードでは日本の十四歳の女子選手が見事オ金メダルを獲得した。

問二 次の①～③の空らんにあうことわざを、後のあうの中から一つずつ選び記号で答えなさい。

① 「書道を習い始めたんだけど、なかなか上達しないから、いやになってきたよ。」
「（ ）というから、辛抱して根気よく続けてごらんよ。」

あ 石の上にも三年

い 三つ子の魂百まで

う 三度目の正直

② 「中一で海外留学なんて、よくご両親が許可なさったね。」

「ずいぶん心配したようだけれど、最後は（ ）という気持ちだったらしいよ」

あ 旅は道連れ 世はなさけ

い 負うた子に教えられ

う かわいい子には旅をさせよ

③ 「お気に入りの服に穴が開いちゃったんだけど、アツブリケを付けたら、かえってすてきになったの。」

「まさに（ ）だね。」

あ けがの功名

い 不幸中の幸い

う 後悔先に立たず

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

言葉というのはつくづく難しいものだと思います。言語学を学び始めてから三十年以上の月日が経ち、今では一応「言語学者」や「作家」という肩書きで仕事をしています。言葉に関する失敗は後を絶ちません。

《X》以前、家族から「ハイター（漂白剤）を買ってきて」と頼まれたことがありました。私は「台所用」のハイターを買って帰りましたが、家族が欲しかったのは「洗濯用」のハイターでした。

《Y》、猛暑が続いていた夏の日、私の何気ない一言が知人を驚かせたことがありました。それは「毎日暑いよね。でも、明日はだいたいいいよ。マイナス六度だつて」というものです。私は「A」を言ったつもりでしたが、知人は「B!？」と思ったそうです。

以上のような誤解は笑って済ませることができませんが、世の中には笑えない例もたくさんあります。SNSを見てみると、① 言葉のちよつとした解釈の違いで対立が起こる場面を頻繁に目撃します。

たとえば、ニュース記事の見出しに、「勉強しない大學生 その実態を探る」のような表現があった場合、人々の間で解釈が割れがちです。まず、「これはおかしい。

大学生がみな勉強しないなんて、勝手に決めつけなくてほしい」と言う人が出てきます。するとそれに対して、「大学生がみな勉強しないなんて書かれてないし、一部の大学生に限った話でしょ」と反論する人が現れます。そこでお互いに「もしかしたら、相手の言うような解釈もあるかもしれない」と立ち止まればいいのですが、私が見るかぎりでは、どちらも「自分が正しい」と言っ

て譲らないケースが多いようです。

ところでみなさんは、「勉強しない大学生」という表現を、どのように解釈しましたか？ これを見て、「大学生はみな勉強をしないと決めつけている」と思いましたか？ 《Z》、一部の大学生に限った話だと思いましたが？

② 答えを言ってしまうと、「勉強しない大学生」という表現には両方の解釈があります。ここでカギとなるのは、「勉強しない」と「大学生」の※しゅうしよく修飾関係です。これらの関係をどのように捉えるかによって、次の二通りの解釈が出てきます。

「勉強しない大学生」

解釈1…勉強をしない、大学生というもの

解釈2…大学生のうち、勉強しない人たち

言語学の立場から眺めれば、この例に限らず、私たちが発する言葉のほとんどは曖昧で、複数の解釈を持ちます。しかし、私たちはなかなかそのことに気がつかず、自分の頭に最初に浮かんだものを「たった一つの正しい解釈」と思い込む傾向があります。世の中には、考え方が違いすぎるあまり、まったく対話ができない人たちがいることは確かです。しかしその一方で、ものの考え方はそう変わらないのに、言葉の解釈の違いだけで対立してしまうケースも少なくありません。SNS上のやりとりを眺めていて、「言葉のすれ違いさえなければ、この人たちはもつと分かり合えたかもしれないのに」と残念に思ったことは、一度や二度ではありません。

③ 言葉のすれ違いを察知し、ある程度の対処ができるようになるには、**言葉を「多面的に見る」**ことが必要になってきます。その際に役立つのは、曖昧さがどういうときに起こるかについての知識です。曖昧さの要因が頭に入っていれば、「もしかしたら私の言葉は誤解を与え

るかも」とか、「もしかしたら相手は、私が思っているのと違う意味でこう言っているのかも」などと考える余裕が出てきます。

(中略)

最後に、ここまでの内容について二点だけ補足をした
 と思います。

一点目は、「曖昧さは、どの言語にも見られる」とい
 うことです。たまに「日本語は曖昧な言語だ」という言
 説を見かけますが、日本語だけが飛び抜けて曖昧だとい
 うわけではありません。紹介してきた曖昧さの要因は
 どれも、日本語だけでなく他の言語にも見られるもので
 す。

二点目は、④「曖昧さには良い面もある」ということ
 です。言葉の曖昧さは私たちを悩ませるものではありませんが、曖昧であるがゆえに、効率的なコミュニケーションが可能になっているという面もあります。

もし言葉から曖昧さがなくなったら大変なことになり
 ます。
 (中略)

私たちの言葉は曖昧で、複数の解釈を許しますが、そ
 のぶん短く簡潔に情報を伝えられます。コミュニケーションの中で上手に曖昧さに対処できれば、スピーディなやりとりが可能になります。

また、曖昧さがあることによつて、※2掛詞や駄洒落
 などといった楽しい遊びができるという面もあります。
 もし曖昧さがいっさいいなくなったら、私たちの言葉はきわ
 めて味気ないものになるでしょう。

私たちが体験している現実世界は多様で複雑です。一
 日として同じ日はなく、一つとして同じものはなく、物
 の考え方や感じ方も一人一人違います。私たちはそうい
 った※3森羅万象を、限られた音や文字からなる「言葉」
 というシステムで表現しようとしているのですから、曖
 昧さは言葉について回る宿命と言つていいでしょう。言
 葉のすれ違いを防ぐのは難しいことですが、読者のみな
 さんに曖昧さを少しでも楽しいもの、面白いものと感じ
 ていただけたら、嬉しく思います。

(川添愛『世にもあいまいなことばの秘密』より 一部改変)

※1修飾：後にくる言葉にかかり、その意味をくわしく説明
 すること。例えば、「白い花」では「白い」は「花」
 を修飾し、「高く飛ぶ」では「高く」は「飛ぶ」を
 修飾する。

※2掛詞：「まつ」は「松」と「待つ」、「すむ」は「住む」
 と「澄む」のように、一つの言葉に二つの意味を持
 たせること。

※3森羅万象：宇宙に存在するすべてのもの。

問一 《X》《Z》に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- あ しかし い それとも
う また え たとえば

問二 A・Bに入る言葉としてふさわしいものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- あ 毎日の平均気温 い 今日との気温差
う 氷点下六度 え せうし 摂氏六度

問三 ——線①「言葉のちよつとした解釈の違い」とありますが、「解釈の違い」はなぜ起こるのですか。次の空らん a く c に、指定の字数で本文の言葉を補って、説明を完成させなさい。

言葉が ^a(2字)であるせいで ^b(5字)が生まれてしまうという可能性に気づかず、自分の解釈が ^c(11字) (だ)と思ひこんでしまうから。

問四 ——線②「『勉強しない大学生』という表現には

両方の解釈があります」とありますが、

I 「解釈1」と「解釈2」の説明としてふさわしいのを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

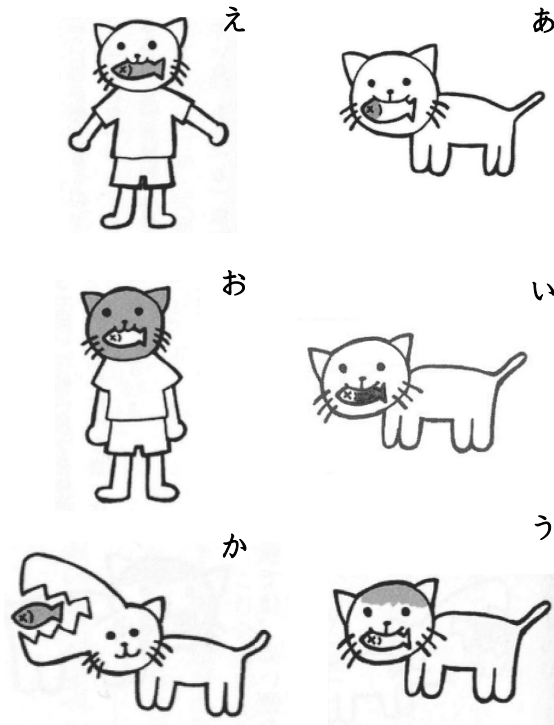
- あ 大学生というものは勉強するのがあたりまえだ
い 普通ふつうの大学生は勉強するものだ
う 勉強しないのは、大学生の一部である
え 大学生全般ぜんぱんが勉強しない

II 次のあくえのうち、「解釈1」と同じような解釈がされやすい例を一つ選び、記号で答えなさい。

- あ 書類がたくさん入るカバン
い 便利なスマートフォン
う 洗い流さないトリートメント
え サッカーをやっている小学生

問五 — 線③ 「言葉が多面的に見る」とあるように、

例えば「頭が黒い魚を食べる猫」という言葉には、さまざまな解釈が成り立ちます。次のあくかの中で、この言葉の解釈としてはおかしいものを選び、記号で答えなさい。



問六 — 線④ 「曖昧さには良い面もある」とありま

すが、どのような「良い面」があるのですか。二点答えなさい。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二月のある日、野中のさびしい道を歩いていた少年は、三十四、五の男の人と道連れになり、話し始める。

「おじさんの※オーバーのポケット、大きいね」
「うん、そりゃ、おとなのオーバーは大きいから、ポケットも大きいさ」

「 A 」

「ポケットの中かい？ そりゃあ、あつたかいよ。ぽこぽこだよ。こたつがはいつてるようなんだ」

「 B 」

「へんなことをいう小僧だな」

男の人はわらいだした。でも、こういう少年がいるものだ。近づきになると、相手のからだにさわったり、ポケットに手を入れたりしないと、承知ができぬという、ふうがわりな、人なつこい少年が。

「入れたっていいよ」

少年は、男の人の※がいつものポケットに、手を入れた。

(中略)

「おじさんのポケット、なんだか、^①かたい冷たいもの

がはいってるね。これなに？」

「なんだと思う」
「かねでできてるね……大きいね……なにか、ねじみた

いなもんがついてるね」

するとふいに、男の人のポケットから美しい音楽が流れたので、ふたりはびっくりした。男の人はあわてて、ポケットを上からおさえた。しかし、音楽はとまらなかつた。それから男の人は、あたりを見まわして、少年のほかにはだれも人がいないことを知ると、ほつとしたようすであった。天国で小鳥がうたつてでもいるような美しい音楽は、まだつづいていた。

「おじさん、わかつた、これ時計だろう」

「うん、オルゴールつてやつさ。おまえがねじをさわつたもんだから、うたいだしたんだよ」

「 C 」

「そうかい、おまえもこの音楽知ってるのかい」

「 D 」

「出さなくてもいいよ」

すると、音楽は終わってしまった。

「 E 」

「うん、だアれもきいてやしないだろうな」

「② どうして、おじさん、そんなにきよろきよろしてるの？」

「だって、だれかきいていたら、おかしく思うだろう。おとながこんな子どものおもちやを鳴らしては」

「そうね」

そこで、③ また男の人のポケットがうたいはじめた。

ふたりはしばらくその音をききながら、だまつて歩いた。

「おじさん、こんなものを、いつも持つて歩いてるの」

「うん、おかしいかい」

「おかしいなア」

「どうして」

「ぼくがよく遊びに行く、薬屋のおじさんのうちにも、うた時計があるけどね、だいじにして、店のちんれつだなのの中に入れてあるよ」

「なんだ、坊、あの薬屋へ、よく遊びに行くのか」

(中略)

「うん、じき近くだからよくいくよ。ぼく、そのおじさんとなかよしなんだ」

「ふうん」

「でも、なツかなか、うた時計を鳴らしてくれないんだ。

うた時計が鳴るとね、おじさんは、【 1 】顔をすすよ」

「どうして？」

「おじさんはね、うた時計をきくとね、どういうわけか周作さんのことを思い出すんだつて」

「えッ……ふうん」

「周作つて、おじさんの子どもなんだよ。不良少年になつてね、学校がすむと、どつかへいつちやつたつて。もうずいぶんまえのことだよ」

「その薬屋のおじさんはね、その周作……とかいうむすこのことを、なんとかいつていてるかい？」

「ばかなやつだつて、いつてるよ」

「そうかい。そうだなあ、ばかだな、そんなやつは。あれ、もうとまったな。坊、もう一どだけ、鳴らしてもいいよ」

(中略)

「おじさんも小さいとき、よくこの道をかよつたの?」

「うん、町の中学校へかよつたもんさ」

「おじさん、また帰ってくる?」

「うん……どうかわからん」

道がふたつにわかれているところに来た。

「坊はどっちイいくんだ」

「こつち」

「そうか、じゃ、さいなら」

「さいなら」

少年はひとりになると、じぶんのポケットに手をつこんで、びよこんびよこんはねながらいった。

「坊ウ……ちよつと待てよオ」

遠くから男の人がよんだ。少年はけろんと立ちどまつて、そつちを見たが、男の人がしきりに手をふっているので、またもどつていった。

「ちよつとな、坊」

男の人は、少年がそばにくると、すこし【2】よくな顔をしていった。

「じつはな、坊、おじさんはゆうべ、その薬屋のうちでとめてもらったのさ。ところがけさ出るとき、あわてたもんだから、まちがえて、薬屋の時計を持ってきてしま

ったんだ」

「……………」

「坊、すまんけど、この時計とそれから、こいつも(と、がいどうの内かくしから、小さい※3懐中時計をひっぱり出して)まちがえて持ってきたから、薬屋に返してくれないか。な、いいだろう?」

「うん」

少年はうた時計と懐中時計を、両手にうけとつた。

「じゃ、薬屋のおじさんよろしくいってくれよ。さいなら」

「さいなら」

「坊、なんて名だつたつけ」

「清廉潔白の廉だよ」

「うん、それだ、坊はその清廉……なんだつけな」

「潔白だよ」

「うん潔白、それでなくちやいかんぞ。そういうりつばな正直なおとなになれよ。じゃ、ほんとにさいなら」

「さいなら」

少年は、両手に時計を持ったまま、男の人を見送つていた。男の人はだんだん小さくなり、やがて※4稲積のむこうに見えなくなつてしまった。少年はてくてくと歩きだした。歩きながら、なにか【3】ものがあるように、ちよつと首をかしげた。

まもなく少年のうしろから自転車が一台、追っかけてきた。

「あッ、薬屋のおじさん」

「おう、廉坊、おまえか」

えりまきであごをうずめた、年よりのおじさんは、自転車からおりた。そしてしばらくのあいだ、せきのためものがいえなかつた。そのせきは、冬の夜、枯木の※5うれをならす風の音のように、ヒュウヒュウいった。

「廉坊、おまえは村から、ここまでできたのか」

「うん」

「そいじゃ、いましがた、村からだれか男の人が出てくるのと、いっしょにならなかつたか」

「いっしょだつたよ」

「あッ、そ、その時計、おまえはどうして……」

老人は、少年が手に持っているうた時計と懐中時計かいちゆうに目をとめていった。

「その人がね、おじさんの家でまちがえて持ってきたから、返してくれていったんだよ」

「返してくれろつて？」

「うん」

「そうか、あのばかめが」

「あれ、だれなの、おじさん」

「あれか」

そういつて老人は、また長くせきいった。

「あれは、うちの周作だ」

「えッほんど？」

「きのう、十なん年ぶりで、うちへもどつてきたんだ。」

ながいあいだ悪いことばかりしてきたけれど、こんどこそ改心して、まじめに町の工場ではたらくことにしたら、といつてきたんで、ひと晩とめてやったのさ。そして、けさ、わしが知らんでいるまに、もう悪い手くせを出して、このふたつの時計をくすねて出かけやがつた。あのごくどうめが」

「おじさん、そいでもね、まちがえて持ってきたんだつてよ。ほんどにとつていくつもりじゃなかつたんだよ。ぼくにね、人間は清廉潔白せいれんけつぱくでなくちゃいけないつてたよ」

「そうかい。……そんなことをいつていつたか」

少年は老人の手にふたつの時計をわたした。うけとるとき、老人の手はふるえて、うた時計のねじにふれた。すると時計は、また美しくうたいだした。

老人と少年と、立てられた自転車かれのが、広い枯野かれのの上にかげを落として、しばらく美しい音楽にきき入った。老人は目になみだをうかべた。

少年は老人から目をそらして、さつき男の人がかくれいつた、遠くの、稲積の方をながめていた。

野のはてに、白い雲がひとつういていた。

(新美南吉『うた時計』より 一部改変)

※1 オーバー・※2 がいとう(外套)：オーバーコート

※3 懐中時計：ポケットなどに入れて持ち歩く小型の時計

※4 稲積：刈り取った稲を積み上げたもの

※5 うれ：木の枝の先端・こずえ

問一 少年と男の人の名前をそれぞれ答えなさい。

問二 「A」～「E」に入る会話文としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

あ うん。おじさん、これ、ポケットから出してもいい？

い ぼく、この音楽だいすきさ

う あったかい？

え おじさん、もう一ぺん鳴らしてもいい？

お ぼく、手を入れてもいい？

問三 ——線①「かたい冷たいもの」とありますが、何のことですか。本文からぬきだして答えなさい。

問四 ——線②「どうして、おじさん、そんなにきよろきよろしてるの？」とありますが、「おじさん」が「きよろきよろ」する本当の理由は何ですか。説明しなさい。

問五 ——線③「また男の人のポケットがうたいはじめた」とありますが、どういう意味ですか。簡単に説明しなさい。

問六 「1」～「3」に入る言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

あ うれしい

い さびしい

う ふにおちない

え きまりのわるい

問七 次の中で本文の内容に合うものには○を、合わないものには×を書きなさい。

あ 少年は薬屋さんの「うた時計」を取りもどすために男の人に近づいた。

い 少年は、男の人のポケットに手を入れたとき、中身が薬屋さんの「うた時計」だとすぐに気づいた。

う 男の人は、少年との会話を通して、息子を案じる父の思いに気づき、自分の行いを改めようとした。

え 少年は、男の人は時計を盗もうとしたのではなく、まちがえて持ってきてしまったのだと信じていた。

お 時計が無事もどってきたとはいえ、老人は、息子に裏切られたことへの腹立ちを抑えられなかった。